

向野義人 松本美由季 山下なぎさ (著)

M-Test

経絡と動きでつかむ症候へのアプローチ

水間正澄 (昭和大教授/リハビリテーション医学)

“M-test”とは、初めて耳にする方も多いことと思う。副題に『経絡と動きでつかむ症候へのアプローチ』とあり、東洋医学的な診断法や治療に関する書であろうことがわかる。

著者である向野義人氏は内科医であるが、長年にわたり鍼灸治療の西洋医学への応用を模索されておられ、従来からの手技を用いて内科診療のなかに鍼灸治療を応用されていた。本書のタイトルである“M-Test”の開発は、著者が現職である福岡大学でスポーツ医学に携わるようになってからであり、あるスポーツ選手を診療したときにひらめいた“症候へのアプローチ”であったとのことである。すなわち、従来の鍼灸治療の方法である“症状とツボ”との関係で鍼灸治療を行うのではなく、症状発現の誘因、原因となっている部位や関連する経穴への施術の試みが劇的な効果を示した1例からヒントを得てこの方法の開発につながったというエピソードが、本書の序論につづられている。その後、著者の指導の下で福岡大学の研究グループにより、M-Testはスポーツのみならずさまざまな領域での応用が試みられ、治療法として体系付けられるようになって成果を上げており、近年はその治療効果が海外からも非常に注目されている新しい方法である。

また、著者は多方面の研究者に声をかけて“ケア・ワークモデル研究会”を発足させ、研修会、研究会を開催し、広く医療従事者への普及に努められてい

る。名称についても、それまでは“経絡テスト”と呼んでいたものを現在のM-Testに変更され、さらなる普及をめざした本格的な活動が開始されている。

本書は現在に至るまでの著者の集大成的な書であるが、常に活動をともにされ普及・指導にあたられている鍼灸師である2人の共著者により、実践的でよりわかりやすいものとなっている。

本書の構成はM-Testの概説に始まり、人の動きの分析に着目した診断とアプローチ手技（最適な治療点の見極め方）について基礎編、中・上級編にわけてわかりやすく述べられている。特に基礎編は初学者にも比較的理解しやすい内容となっている。また、M-test 症状別治療の項目でも、初学者のためのファーストステップとして、日常遭遇することの多い症状に対する治療応用について述べられており、実践的で役立つ構成となっている。

著者はこの方法を、スポーツ医学のみならず広く産業医学、地域医療、リハビリテーション医療、介護領域などにも応用できると考え、普及に努めてこられた。本書は多くの医療関係の方々がM-Testに接し、臨床現場で応用していただくためにも、実践に向けての研修会受講などの参考書としても有用であると思われる。

(B5 頁 184 2012 年 定価 3,780 円 (本体 3,600 円+税 5%)) [ISBN978-4-260-01608-7] 医学書院刊)